

# 遊園地閉園の影響による周辺地域の変容に関する研究

キーワード: 遊園地 大規模跡地 用途転用 変容実態 住環境への影響

## 1. 研究背景

日本における遊園地の歴史は、1911年に近代的な娯楽場である宝塚新温泉(宝塚ファミリーランド)を阪急電鉄が整備し、成功したことをきっかけに、鉄道会社による遊園地建設ラッシュが起きた。また、1983年に東京ディズニーランド開園をきっかけに、バブル膨張期にテーマパーク建設ラッシュが起き、遊園地・テーマパーク施設は数を増やしていった。しかしバブル経済の崩壊によって不況が長期化し、2000年代に入り経営難による閉園が全国で相次いだ。2000年10月に「テーマパークの経営不振企業は全体の77%」という調査結果が出ており、日本の遊園地・テーマパーク経営は非常に厳しい状況にあり、レジャーの多様化や少子化、施設の老朽化なども相まり、今後も閉園する遊園地が出てくることが予想される。

閉園後の跡地には大規模なマンションや商業施設が建てられるなど、土地利用状況に大きな転換を図るものが多いが見られるが、閉園及び跡地活用は、遊園地利用客を意識した周辺の商業施設や住環境だけではなく、遊園地に愛着を持つ地域住民に対して大きく影響を与えることとなる。

## 2. 研究の目的

本研究は、閉園により発生した遊園地跡地とその周辺地域を対象とし、遊園地跡地活用の特徴を把握するとともに、閉園と跡地活用による周辺地域への影響を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究方法

【調査1】閉園した遊園地の跡地活用に関する事例収集・類型化

【調査2】10年毎の住宅地図を用いて遊園地跡地及び周辺地域の立地変容を把握

【調査3】ヒアリング

[対象者] 跡地及び周辺地域の自治体、町内会、住民

[内容] 居住経緯、理由、居住者層、跡地活用案に対する地域の動き、跡地活用による地域への影響、遊園地及び跡地利用状況